

保育計画成果報告書

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 法人名 | 長谷川ナーシングパートナー(株) |
| 施設名 | わらべうた等々力保育園 |
| 報告者（役職） | 漆中 由美子（園長） |
| 住所・連絡先 | 東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン 60 57階 |
| | ☎ 03-5957-7808 |
| | E-mail s-harazono@warabeuta.co.jp |

○タイトル（保育計画）

都市型保育園の園庭に冒険の丘を創る

○主な助成備品

園庭整備

1. 実施した保育計画作成の目的

等々力駅から5分、目の前に目黒通りが走る都市型の保育園です。子どもたちに砂場遊びが必要と考え、小さな園庭を作りました。近隣に空き地はなかったため、駐車場を5台分賃貸し、アスファルトをはつり、土を入れ、砂場と築山だけを作ったシンプルな園庭です。

このようなシンプルな園庭ですが、子どもたちはどろんこ遊びを楽しみにし、保護者の方にも子どもの遊びを理解いただき、毎日どろんこのお洋服の洗濯をしていただいています。

今年度の保育をスタートするにあたって、保育内容の振り返りと今年度の計画を行いました。折角園庭があるのだから、もっと活用したいとの提案が保育者からあがり、園庭の計画について話し合いました。子どもたちのからだの育ちの課題としてあがったことが、家庭で歩く経験が少ないこと（通園も車や自転車の方がほとんどです）、その分毎日散歩に行き歩いているけれど（年齢×1km歩くことを計画しています。子どもたちはあそこに行こうと歩くことを楽しんでいます）、歩く場所は平地が多く、子どもたちに高低差の経験が少ないのではという意見でした。高低差の経験を園庭でできるように環境を設定しようと意見がまとまりました。

2. 具体的な実施内容とその成果と評価

園庭整備：スライダーの設置 築山 掲示板

3. その成果と評価

「冒険の丘を作る」をテーマに、大型のスライダーを設置した。

何もない園庭に大型スライダーが設置されたことにより、子どもたちには大きな変化がみられた。



●スライダー滑り

0歳児

- ・初めは滑ることを怖がっていた子が、他児の滑り方を見るなど影響を受けて、滑ることができるようになった。

1、2歳児

- ・滑る方からよじ登る。全身を使った動きが必要になる。特に腕や足の力を使う。また靴を脱ぎ、自ら裸足になって遊ぶ姿が多く見られた。
- ・公園などのスライダーでは、下から登ったりしない。ここでは（園庭）登ってよいと、理解できるようになった。
- ・スライダーの上からボール転がして遊ぶ。他のスライダー（公園などの）では絶対できない遊びにより、高低差の不思議を体感した。
- ・友達と一緒に、手をつないですわり、スライダーを滑る。友達と関わりながらの遊びが広がっている。

●高さのある台であそぶ

0歳児

- ・柵の隙間から下に向かって「オーイ」と声を出して手を振ったり、下にいる子も見上げて楽しんでいる（高低を楽しむ）（3期後半から）。

1、2歳児

- ・台の上からシャボン玉を飛ばすと、それを下にいる子が追いかけて、上を意識しながらうまくぶつかからないように走ったりと、注意力も身に付いている様子。高低があると、平面のながれとは違う活動ができる。

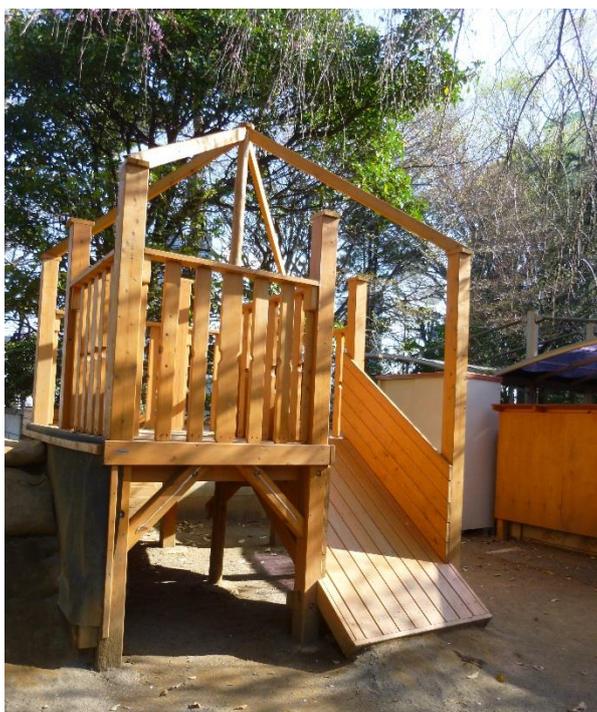
●台の下であそぶ

0歳児

- ・台の下のスペースで、身を隠し「いないいないばあ」をして楽しむ遊びをおぼえ、友達や保育者と楽しんでいる。

1、2歳児

- ・屋根のある空間なので、安心感があり、かくれんぼをしたり、土いじりを楽しんでいる。せまい空間ならではの、子ども達同士の関わりが見られている。
- ・雨やどりする。小雨がぱらついてもみんなで台の下に入り、雨宿りを楽しんだ。
- ・縄跳びを使った電車ごっこでのトンネルくぐりで、屋根のある空間の遊びを広げた。



●築山のぼり・下り

0歳児

- ・築山の高さが高くなったことで、登ることが少し難しくなり、登り着いた時には保育者に褒められ、嬉しそうに自分で拍手したりと、達成感につながっている。

1、2歳児

- ・足元が不安定な坂や、滑りやすいところで足を踏ん張って身体を支える力や、手をついて登るなど全身を使った動きが見られた。体重を感じながら動く活動は、平坦な場所ではあまりできない。ふつう手をつくことは嫌がる子もいるが、自然と手をついている。
- ・築山を登っていて、落ちそうになった時、他の子が助けようとしたり、手をつないで登ったりと、助け合う姿が見られるようになった。

●その他

1歳児

- ・スライダーと築山の周りをぐるぐる走り回り、空間を楽しんでいる。バランス感覚もついていると思う。
- ・遊具ができたことで、園庭への親しみがより増した。帰る時「園庭さんバイバイ」と手を振る姿も見られる。

4. 今後の課題と展望

大型のスライダーは、地域のランドマークとなり、今まで保育園の園庭と認識していなかった地域の方々も「ここが保育園の庭」との認識が広がってきた。地域の保育ママさん（園庭のない施設）も定期的に訪れ「地域の公園では滑り台の体験は難しいが、これは小さな子も遊べる安全なサイズなのでとても楽しみにしている」と評価をいただいている。

一方、保育園の2歳児は「招待している」という気持ちも芽生え、一緒に遊びに誘う等の交流が広がっている。

また、保育園に見学に来られる方にも案内をしたり、地域の児童館や子育て広場にも「園庭解放」のちらしを置くことで、電話もいただけるようになった。今後もこのスライダーを利用し、地域との関わりを広げていきたい。

以上